

ようこそ晴れの国 おかやまへ



第2回 地域の実情に応じた少子化対策の推進に関する意見交換会

少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業

「少子化対策地域評価ツール」を活用して

岡山県 子ども・福祉部 子ども未来課

2024.02.14

森の芸術祭 岡山

FOREST FESTIVAL OF
THE ARTS OKAYAMA

2024年秋、岡山県北部の地域において、
国際芸術祭「森の芸術祭 晴れの国・岡山」が開催されます。
開催期間：9/28（土）～11/24（日）



作品設置会場
5市町6エリア

告知



01 バックアップ事業概要

岡山県

02 事業検討フロー（ワークショップフロー）概要

(株)大広

03 成果や課題を踏まえた来年度の進め方

岡山県

01

バックアップ事業概要

岡山県の概要

山陽道の中央に位置し、東は兵庫県、西は広島県に隣接。南は瀬戸内海を臨んで四国に、北は山陰地方と接しており、中四国地方の交通の要衝として古くから重要な位置にある。

総面積	7,114.77 km ²
総人口	1,865,478 人 (R5.1)
世帯数	866,346 世帯 (R5.1)
合計特殊出生率	1.39 (出生数12,371人) (R4)
未婚率 (25~39歳)	<u>男性</u> 48.4 % <u>女性</u> 37.2 % (R2)
有配偶出生率 (15~49歳)	76.9 % (R2)
特徴	降水量1mm未満の日数が全国1位で、「晴れの国」と呼ばれるほど晴れの日が多い



実施の背景と目的

市町村が抱える課題

- ・少子化対策を担う部署や部局横断的組織がない市町村も存在
- ・担当者は多岐にわたる業務を兼務しているため、少子化対策に十分なリソースを割けない
→少子化の要因分析ができていない、対策を検討する人的な余力がない等の課題が頻発
- ・事業構築や交付金活用等のノウハウの蓄積が少ない

県が抱える課題

- ・出生率等に関連する指標の状況は地域によって大きく異なるため、要因や課題にも地域差があり、画一的な対策では限界がある
- ・市町村に比べ、地域の実態に即した対策の実施が難しい
- ・少子化対策は、「できることは、すべてやる」という強い意志で取り組みたい



実施目的

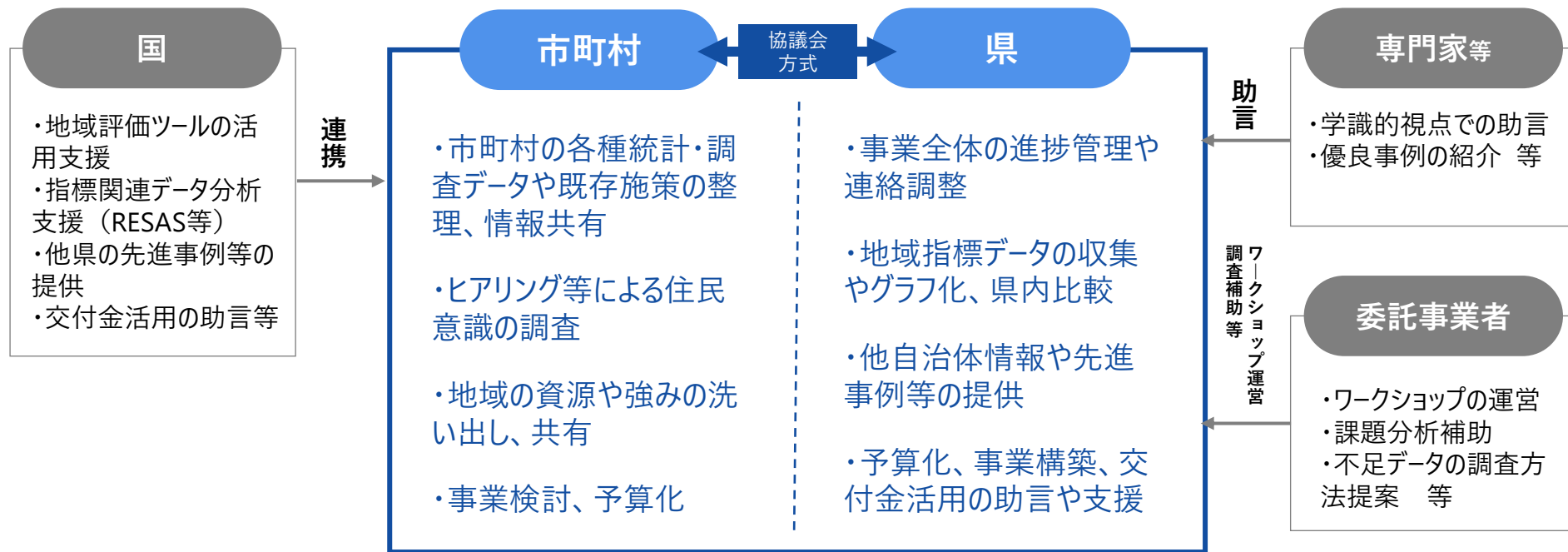
少子化の要因や課題は地域によって異なるため、県と市町村が力を合わせて、少子化の要因等を分析し、オーダーメイド型で対策を検討することにより、**各地域の実情に応じた効果的な少子化対策の推進**を図る。

実施体制と役割分担

国、専門家、委託事業者とも連携することで、県や市町村だけでは不足しているリソースやノウハウをカバーできるバックアップ体制を構築

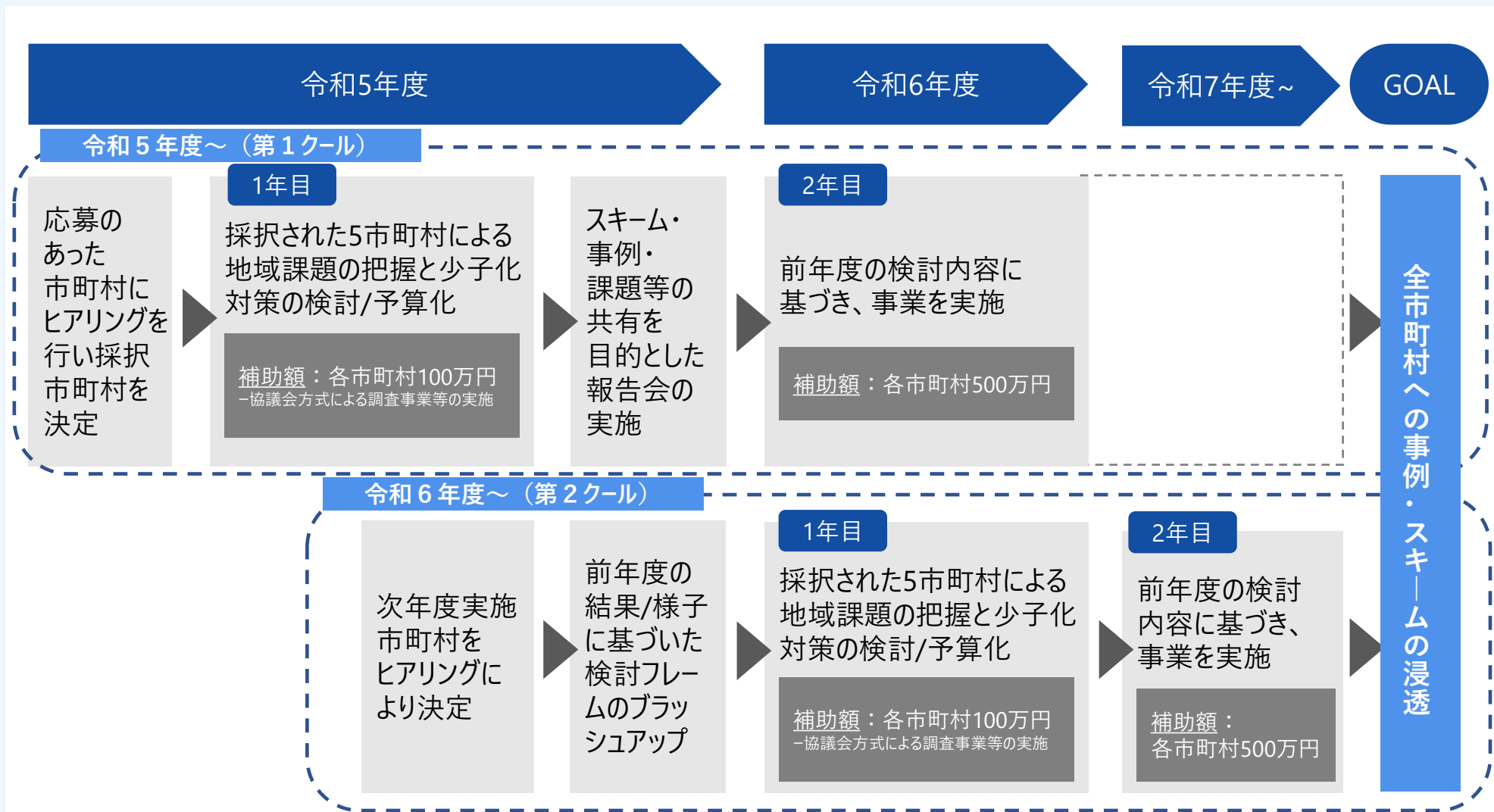
実施体制図

県と市町村の連携による地域課題の把握と少子化対策検討



事業の展開 (ロードマップ)

1クール(2年間の伴走支援) × 2クールで実施し、県全域への事例・スキームの浸透を目指す



参加メンバー

各市町村複数の課・役職、横断型のチーム組成を行い事業検討を実施

玉野市	福祉政策課	主幹
	福祉政策課	室長
	健康増進課	課長補佐
	総合政策課	主任
	総合政策課	主事

瀬戸内市	こども家庭課	課長
	こども家庭課	参事
	こども家庭課	主査
	こども家庭課	主事
	企画振興課	主幹
	企画振興課	主査

奈義町	こども・長寿課	副参事
	こども・長寿課	副参事
	情報企画課	参事
	情報企画課	主事

美咲町	こども笑顔課	課長代理
	こども笑顔課	上席主事
	地域みらい課	主事
	地域みらい課	主事

矢掛町	教育課	係長
	企画財政課	主査
	健康子育て課	主幹
	健康子育て課	子育て 福祉相談員

岡山県	子ども未来課	少子化対策班
	備前県民局	福祉振興課
	備中県民局	福祉振興課
	美作県民局	福祉振興課

委託事業者	(株) 大広
専門家	(株) 出島プランニング

国 (オブザーバ)	内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局（女性活躍少子化班、BDT） こども家庭庁長官官房少子化対策室、中国経済産業局
--------------	---

心がけたこと

今回の事業を進めるにあたり、心がけたこと。

- ✓ 「言うだけ伴走」にしない
- ✓ 各市町村の自走を目指す
- ✓ 市町村との関係性を深める

02

事業検討フロー（ワークショップフロー）概要

検討フローの考え方

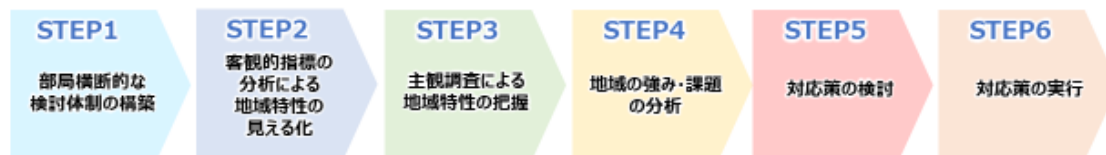
事業検討は「少子化対策地域評価ツール」を活用した「地域アプローチ」を前提にしつつ、分野横断・EBPMといった本ツールの狙いや価値が最大限発揮されるよう、一部カスタマイズをしたオリジナルフローにより実施

「地域アプローチ」による少子化対策の取組プロセスについて

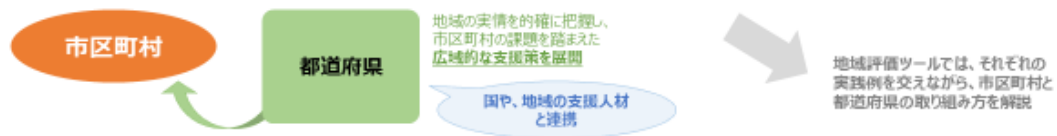
少子化対策地域評価ツールでは、地方公共団体による「地域アプローチ」による少子化対策の取組を6つのSTEPに分割して紹介しており、それを支える都道府県の役割についてもまとめている

- ✓ 地域評価ツールでは、「地域アプローチ」による少子化対策の取組について、市区町村が行う場合を想定してSTEP1～6にわけて各プロセスでの取り組み方や実践事例を紹介しているほか、それを支える都道府県の役割・取組内容についてもまとめている

「地域アプローチ」による取り組み方について



分業横断的なプロジェクトチームで設定した実行計画に沿って、出生に関連する地域の様々な指標のデータや、アンケート・ヒアリング等を活用して洗い出した地域ごとの課題について、地域の資源・強みなどを活用しながら、地域の様々な主体との協働によって、地域の実情に応じた少子化対策の取組を実施！



検討フローの重視点

検討フローは、以下4つの視点を重視し「少子化対策地域評価ツール」をカスタイズ

- ✓ 参加メンバーの**当事者意識の醸成**に重きを置いたワーク設計
- ✓ 課題の**連鎖性**に着目した各地域の**独自課題の構造的把握・見える化**の実施
- ✓ 住民の思い/課題/欲求を何よりの起点においた、「**住民中心発想**」による事業開発
- ✓ 誰もが活発的に意見・アイデアを交わすための**ディスカッション活性化**に向けた仕掛けづくりと展開しやすいフレームづくり

検討フローの全体像と各日程の目的

計6日のワーク（各回 3 時間程度）とインタビュー調査、各回のホームワークにより事業検討を実施

少子化対策
地域評価ツール
の該当STEP

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

Day1

ホームワーク

- ワンチームでのプロジェクト進行・事業検討していくための**共通認識づくり**
- 主体的・積極的な関与を促すための**当事者意識の醸成**

Day2

ホームワーク

- 客観的データに基づく**市町の現状の把握**
- 市町の現状を踏まえた**取り組むべき課題・市町村の目指すべき姿の設定**

Day3

ホームワーク

- 取り組むべき課題の達成に向けた**探索事項（インタビュー設計）の決定**

主観調査
インタビュー

ホームワーク

- 住民の**思い・課題・価値観の探索**
- 住民の声を起点とした、**課題解決方向性の探索**

Day4

ホームワーク

- 住民の声から見てきた**課題解決方向性（解決すべき事象）の整理/設定**

Day5

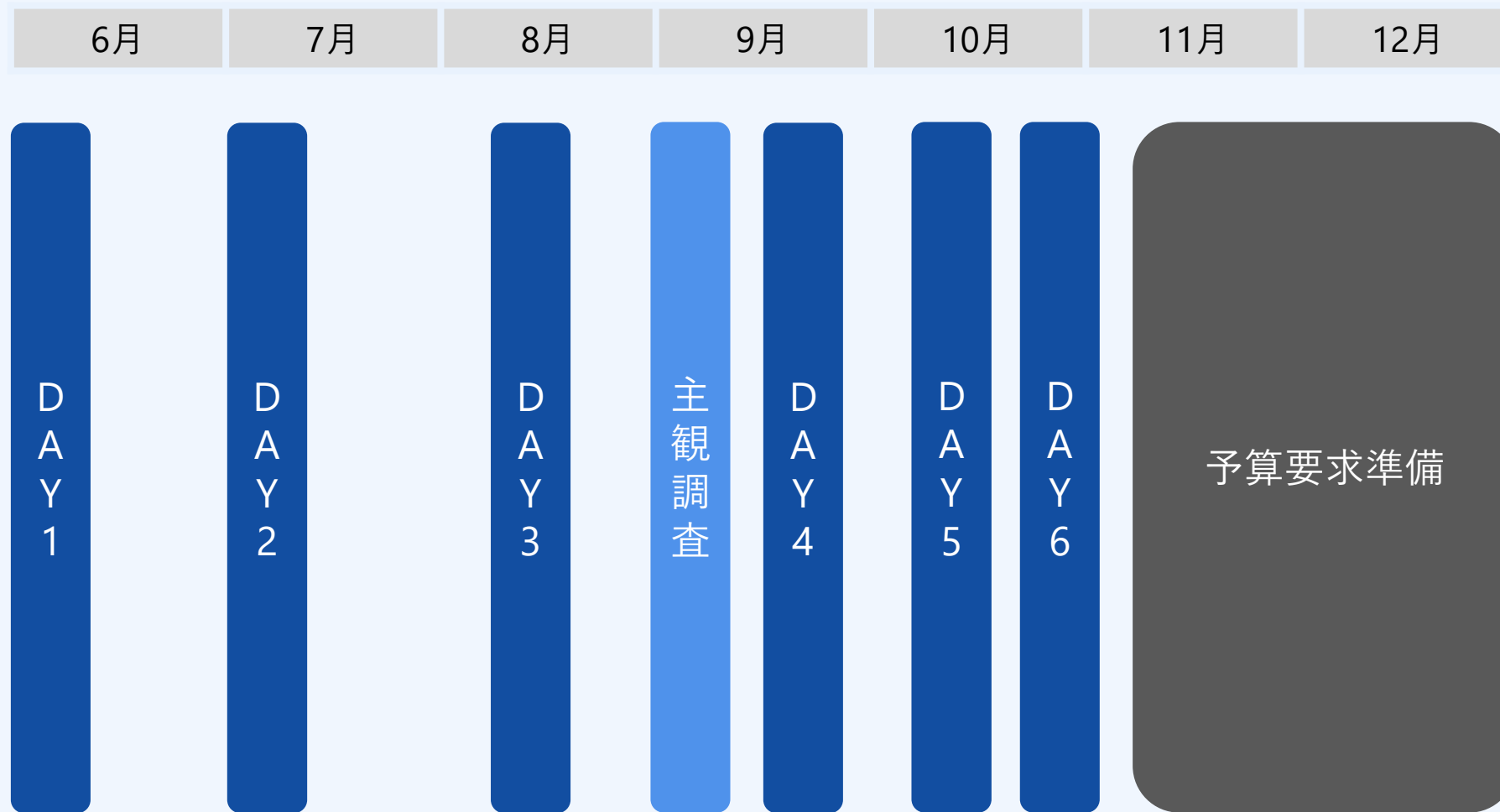
ホームワーク

- 課題解決方向性を踏まえた**事業アイデアの構想・策定**

Day6

- 効果・実施難易度を踏まえた**優先検討事業の設定**
- 今までの議論内容の整理に基づいた**簡易事業計画の作成**

検討スケジュール



本日はあまりお時間がないため、

- Day2（地域の現状把握と取り組むべき課題の設定）
- Day5（事業アイデアの構想・策定）

について具体的なワーク内容をご説明いたします。

Day2のワーク内容

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

Day2のゴール

- 客観的データに基づく**市町の現状の把握**
- 市町の現状を踏まえた**取り組むべき課題・市町村の目指すべき姿の設定**

▽

ワーク内容

ホームワーク

地域指標に基づいた地域特徴・課題仮説・現状の取り組みの整理

少子化対策地域評価ツールにおける客観的指標をもとに、各分野の地域特徴・課題仮説・取り組み状況を整理する。



少子化対策 이슈マップの作成

ホームワークで各市町村整理してきた情報のうち、地域課題に関する項目を付箋に記入し「少子化対策 이슈マップ」(p.16参照)に配置する。その 이슈マップ全体を俯瞰しながら、関係する項目のあいだに矢印を引き、それぞれの相互関係を整理することで、各市町村の少子化という課題がどのように連鎖しているか、少子化対策地域評価ツールの客観的指標がそれぞれどのようにつながっているのかを構造的に把握する。

取り組むべき課題と探索の問いの設定

完成した「 이슈マップ」を見て、現在の取り組みの有無や客観的指標から見える深刻さ、結びつく課題の多さなどをもとに、各市町村として取り上げたい、解決したいと考える起点となる課題を選定する。
その課題の解決のために、どのようなことを考えるべきか、課題/問いのリフレーミング (p.17参照) という手法を活用し問いを広げていくことで、「探索の問い」を設定する。

Point

- 地域指標を別々でとらえるのではなく、その**つながり/連鎖性を意識しながら構造化**することで、市町村の課題・現状を精緻に把握する
- 이슈マップをもとに着目する課題を**早い段階で意志をもって決める**ことで、課題の探索に時間を使う(着目はしなかったが顕在化している地域課題については各市町独自で対策を検討)

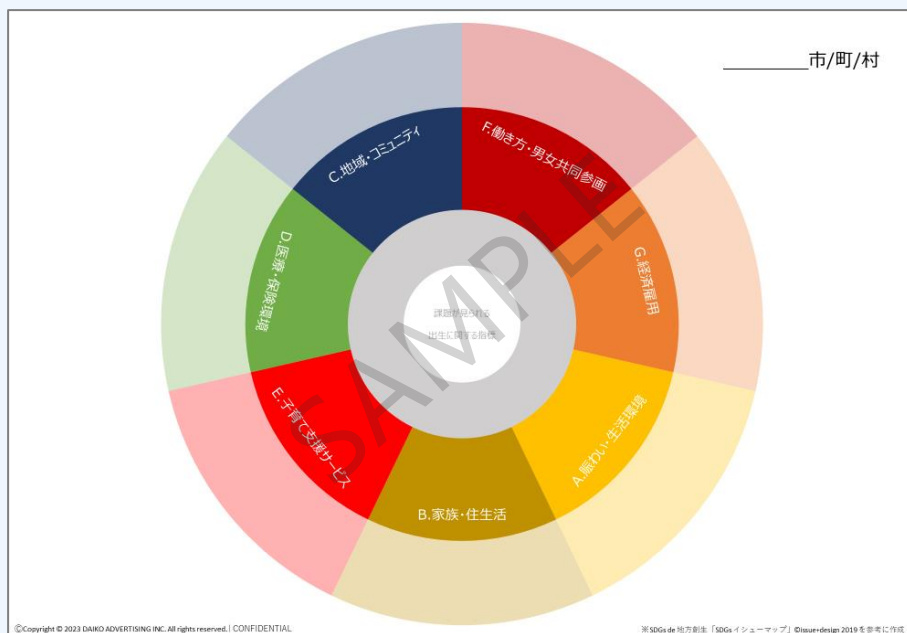
(参考) 少子化対策イシューマップ概要



「少子化対策イシューマップ」とは...

少子化対策地域評価ツールの客観的指標に定められている、「出生に関する指標」「地域指標（「賑わい・生活環境」「家族・住生活」「地域・コミュニティ」「医療・保険適用」「子育て支援サービス」「働き方・男女共同参画」「経済雇用）」を関連性の高いもの同士が近くなるよう円状に並び替えたマップ。

※SDGs de 地方創生「SDGs イシューマップ」©issue+design 2019 を参考に株式会社大広で作成



「出生に関する指標課題」を赤色、「地域指標課題」を黄色、「地域指標課題の結果起こる、住民の”課題や欲求”」を青色の付箋で配置し、それぞれのつながりを整理することで、地域課題を構造的に可視化できる。

Day2の様子

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

ようこそ晴れの国 おかやまへ



Day5のワーク内容

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

Day5のゴール

- 課題解決方向性を踏まえた**事業アイデアの構想・策定**

ワーク内容

ホームワーク

地域資産カード作成

Day4で設定した解決課題も踏まえながら、各市町村の活用できる地域資産や地域の強みを洗い出し、地域資産カードを作成する。地域資産は施設や制度、サービスなどのだけでなく、文化・風土・雰囲気なども洗い出す。

解決課題起点のアイデア出し

イシューマップ・インタビュー結果に基づいて作成した、解決課題カードをもとに、ストレートに考えられる事業アイデアについて、既存事業の改善アイデア、新規事業アイデアの2つに分けながら構想する。

地域資産起点のアイデア出し

収集した地域資産カードをもとに現在足りていないところや活用できることを考えながら、さらに事業アイデアを構想する。その際に、この資産を使ってこの課題を解決しようと思ったら何ができるかという**「強制発想法」**を使ってアイデアだしも行う。



事例からの気づき起点のアイデア出し

事例カードをもとに、自治体・企業の事例から得られる新たな視点を共有し、その視点に基づいてさらにどのような事業が考えられるか構想する。その事例をそのまま各市町で転用・利用できないかという考えだけでなく、**その事例の考え方を転用・活用**できないかという視点で事業アイデアを構想する。

Point

- 解決課題・地域資産（強み）・事例をカードにして情報を整理することで、その場ですぐ理解できる取得しやすい情報であり、自由に動かせる扱いやすい情報にすることでアイデア発想をしやすくする
- 解決課題・地域資産・事例を一気に提示するのではなく、段階的に提示することで、アイデア発想が止まりそうなタイミングの新たな情報刺激とすることができ、発想の広がりを助ける

(参考) アイデアだしワークシート

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

縦軸に少子化対策地域評価ツールの「地域指標」、横軸に「解決課題カード」を配置し、それぞれ該当する事業アイデアを新規事業、既存事業の改善を色分けしながら付箋で記載していくことで、常に住民の課題を意識しながらアイデアを発想することを意識できる。



(参考) 地域資産・事例カード例

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

地域資産カード 矢掛町

井原鉄道



岡山県総社駅から広島県神辺駅までを繋ぐ鉄道路線。矢掛町内には、小田駅・矢掛駅・三谷駅の3駅があり、通勤、通学等で利用されている。月に1回井原線D E得々市を開催し、出店やステージイベント等を開催している。

A. 賑わい・生活環境 施設・場所

地域資産カード 美咲町

エイコンパーク



公園には、図書館のある「文化ゾーン」、スポーツの「交流ゾーン」、遊歩道の「遊びのゾーン」、そして福祉施設のある「福祉ゾーン」の4つのゾーンがあり、地域の人々の「温かいあい」と「豊かな生活文化」など、楽しめる場所

地域指標 類型

地域資産カード 奈義町

奈義町現代美術館



建築と芸術を作品を融合させ、周囲の環境も取り込んでみせる「21世紀型の全く新しいタイプの美術館」として平成6年開館。設計は磯崎新。国際的な3組のアーティストの作品を半永久展示が可能な形で「空間＝建築化」。多種多様なアーティストを紹介する企画展やイベント等を毎月開催。

A. 賑わい・生活環境 施設・場所

地域資産カード 玉野市

住みよさランキング2年連続県内第1位



東洋経済新報社がまとめた「住みよさランキング」において、2年連続（2019～2020年）岡山県内第1位に輝いている。

A. 賑わい・生活環境 環境・風土

地域資産カード 瀬戸内市

ほしのさざなみ映画館



岡山県瀬戸内市の、あの場所、この場所が、その夜だけの特別な映画館になる・・・晴れの国おかやまの、瀬戸内海に面したこの町で、みんなで集まって映画を楽しもうというシンプルな想いから生まれた野外上映会<ほしのさざなみ映画館>

A. 賑わい・生活環境 その他

事例カード 1-6

地域と子育て家族をつなぎ未来を作る留学プログラム 保育園留学

実施主体: 株式会社キッチハイク

1～2週間ほどの期間で、こどもが保育園に通いながら家族で好きな地域に滞在し、暮らしか体験をすることができる留学プログラム。お子さんにとっては、幼少期に大自然に触れ、心身ともに健やかに育つ環境を、ご両親は、働きながら、子育てしながらも多様な選択も、過疎地域には、子育て家族を招き、地域経済に貢献をもたらす。留学先としての保育園だけでなく、宿泊施設やアクティビティまで紹介してくれる。



<https://hokuen-ryugaku.com/> 移住・定住促進

© 2023 DAIGO ADVERTISING, INC. All Rights Reserved. CONFIDENTIAL

事例カード 2-6

坂井市で学生がつくる結婚式 SAKAI-Wedding事業

実施主体: 福井県 坂井市

学生が、市内の公共施設を利用して結婚式をプロデュース・運営し、人前結婚式を挙式。学生は結婚式の企画立案・準備・当日運営・実施報告会まで行う。コロナ禍の影響により、挙式・披露宴をキャンセルしたカップルを募集。



<https://www.city.sakai.lg.jp/koko/ivaw/koho/focus/2/21/> 出会い・結婚促進


© 2023 DAIGO ADVERTISING, INC. All Rights Reserved. CONFIDENTIAL

事例カード 4-17

夫婦で未来をデザインする 夫婦会議ノート

実施主体: 株式会社logista

「わたしたち」を主題に、より良い未来に向けて夫婦が対話を重ね、行動を決めていく「夫婦会議」を進める際に役立つノートブック。ライフステージや世代を問わず、すべてのご夫婦に親しんで頂けるのが特徴で、夫婦会議を習慣化したい方はもちろん、夫婦会議？難しそう...という夫婦にも「対話のコツ」や「議題例」のページを参考に、カンタンに夫婦会議を始められる。



<https://www.logista.jp/fufukaiji/fufukaijinote/> 育児支援

© 2023 DAIGO ADVERTISING, INC. All Rights Reserved. CONFIDENTIAL

事例カード 5-15

資源ごみ回収拠点での「ついでの交流」こみすて

実施主体: 奈良県生駒市

自治会館等に設置されている資源ごみ集積場所にカフェなどの交流スペースを併設した取り組み。住民に資源ごみを細かく分別して集積場所へ持ち込んでもらうという、併設したカフェやウッドデッキなどで、集まった住民同士の「ついでの交流」によるコミュニケーションを促している。取り組みの中で集まる子供たちをみすてとして自主的に開かれるようになり、その子で花火を楽しんでいることが高齢者の参加のきっかけにもなっている。



<https://suumo.jp/news/2023/02/23/173470/> 生活・勤労支援

© 2023 DAIGO ADVERTISING, INC. All Rights Reserved. CONFIDENTIAL

事例カード 5-17

公園・遊び場が近くにやってくる 移動式遊び場

実施主体: 移動式遊び場全国ネットワーク

車（フレッカー）やリヤカーなどに様々な遊具や遊具、玩具や遊具を搭載し、道や駐車場、空き地や広場、公園空地などを遊び場に变化させたり、既存の遊び場をより豊かな遊び場に变化させ、日常の遊びを豊かにするきっかけとなる「ぐるり遊び場」。どこでも遊び場に変わることで、大きなメリットで、行政区域のあちこちから広く展開できる。様々な自治体で実施されており、瀬戸内市でもフレッカーの取り組みが実施済み。



<https://mpn-japan.com/> 生活・勤労支援

© 2023 DAIGO ADVERTISING, INC. All Rights Reserved. CONFIDENTIAL

Day5の様子

STEP1

STEP2

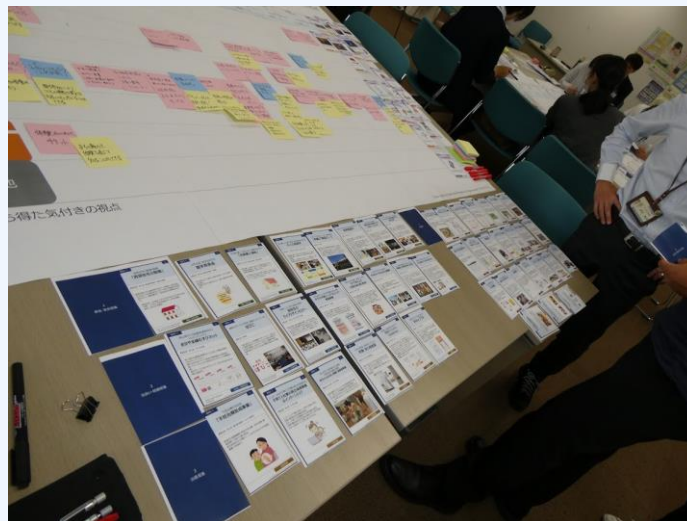
STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

ようこそ晴れの国 おかやまへ



立案された予算要求中の事業事例

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

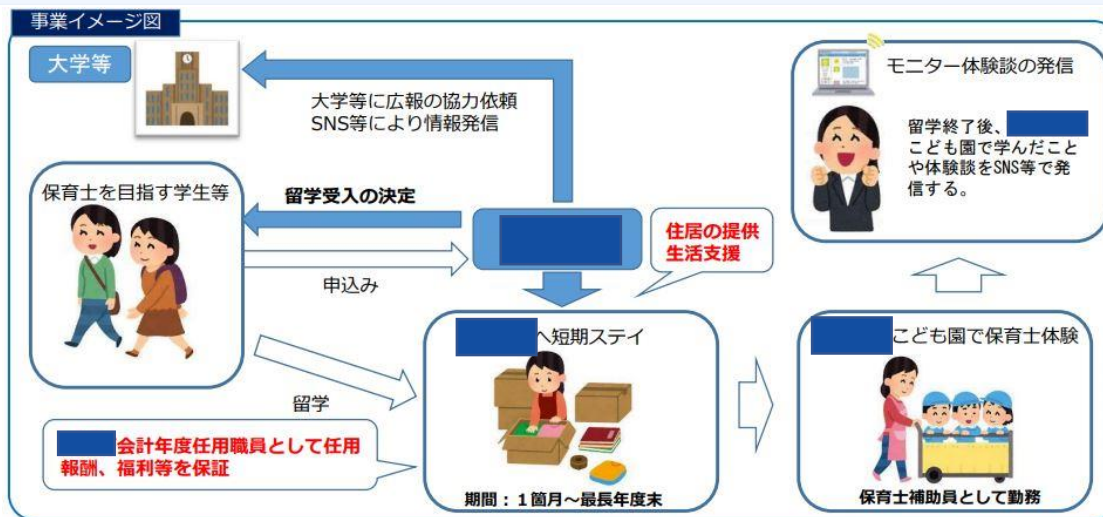
事業案名 こども園保育士留学事業

事業の趣旨および必要性

令和6年4月に開園する「 こども園」で、保育士を目指す学生や都市部の潜在保育士等を受け入れ、保育士業務を体験する機会を提供することで、保育士としての就労やキャリア形成を後押しする。
併せて、 に滞在する中で、本町の魅力を体感してもらい、関係人口の拡大を目指す。

事業の内容

- ・保育士を目指す学生、キャリアを積みたい保育士、都市部の潜在保育士等へ呼びかけ。
- ・地方都市の大学、潜在保育士等へアプローチ。
- ・ に滞在しながら、 こども園で保育士補助業務を行い、留学終了後はモニターとして体験談を発信。



立案された予算要求中の事業事例

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

事業案名 子育て支援センター等でのイベント実施事業

事業の趣旨および必要性

土日の親子の居場所づくりや、保護者同士の交流の場をすることにより、子育てにおける不安感や負担感を軽減させる。[]での子育てが楽しいと感じてもらう。

事業の内容

- ▶ 子育て支援センター等の町内の施設を利用した親子イベントを実施し、交流の場・居場所づくりを行う。
年4回竹を使ったワークショップや昼食作り（羽釜ご飯やソーメン流し）等のイベントを実施
- ▶ 子育て支援センターで母親交流事業を実施
「親子の絆づくりプログラム」を実施し、子育ての悩みや不安を保護者同士で共有する。
（就学前の子を育てている母親向けの育児プログラム 全5回）

※実施については県内NPO法人へ委託



子育て支援センターの日曜日開所や、[]に子育て支援拠点の設置等も検討していく。

立案された予算要求中の事業事例

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

事業案名 **すくすくチャイルドサポート事業（拡充）**

事業の趣旨および必要性

既存で好評のすくすくチャイルドサポート事業を拡充する。インタビュー調査で、子育てすることに幸せを感じているが、経済不安が、もう1人産み育てることをためらう要因であることが聞かれた。そこで、出生後の子育て世帯の経済負担軽減を目的に、「すくすくチャイルドチケット」の配付対象年齢の拡充と、第3子以降の増額を行う。

事業の内容

市内の協力店舗で育児に必要な紙おむつや粉ミルクなどの育児用品を購入することができる「すくすくチャイルドチケット」を月額3,000円分、満3歳到達月まで配布する。

対象者

満2歳まで



満3歳まで

交付金額

 1人あたり
3,000円分

 第3子以降1人あたり
2,000円分増額

市町の方の参加してみたの気づき・学び・成果（抜粋）

参加してみたの気づき・学び・成果

- 闇雲にすすめる従来型とは、一線を画した手法で新鮮だった
- 一つひとつの課題に、複数の問題が複雑にからんで煩雑化しており、順番に解決策を考える必要があると感じた
- 主観調査（インタビュー）では参加者の話を引き出してくださり、参考になる意見を聞くことができた
- 町の良い所にも目を向けることができた
- 来年度に向け、具体的な事業実施を行うための準備ができた
→補助金や他県で先進的に行っている情報提供、NPO等各種団体への繋ぎ等、県の方が全面的にバックアップしてくださった。
- 県の後ろ盾があるのは、庁内での予算要求等にもプラスに作用した
- 他市町でも似たような課題を抱えていることが分かり、意見を共有したり共感したりすることができた
- データ提供や国、専門家とのネットワーク構築など、県の伴走支援はありがたかった。事業化に向けた作業でも県に協力いただいております、大変心強い
- 県と市町村が役割分担して事業する、スキームは有用。他に横展開を望む

市町の方の参加してみたの課題・苦労点（抜粋）

参加してみたの課題・苦労点

- WSを踏まえて取り組んだHWも×切りに追われ苦労した（通常+α業務）
- HWなど各市町村の打合せにも参加してほかった
- 庁内の足並みが揃っておらず、どこがイニシアチブ取るか苦労した
- 子育て世帯から、他部署に対する施策要望も出たが、共有等が密に行えなかった
- ワークショップのボリュームがあるので消化不良のまま進めることになった
- 子育て/少子化の担当課だけでは不可能
- 課題「第2子の合計特殊出生率が低い」ことの裏づけを取りたいが、市町が把握するデータのみではその確認が難しく、他市町や県ももっていないデータであった
- 対面で集まって議論する意義はわかるが、毎回、ワークショップ会場まで移動するのは少し負担だった
- 主観調査で寄せられた声をすべて事業に反映できたわけではなく、粘り強い取組が必要。

03

成果や課題を踏まえた来年度の進め方

今回得られた成果・示唆・学び

今回の少子化対策バックアップ事業での成果と学び

- ✓ 各市町が感覚的に把握していた課題等を、EBPMの考え方に基づいた検証や住民の意見聴取を通じて、体系的に整理し、事業立案につなげられたこと。
- ✓ 5市町が同時に進行することで、各々の地域性や課題の違いを比較したり、既に取り組んでいる事業を情報交換するなど連帯感がある検討ができたこと。
- ✓ 県（データ収集・整理、契約事務等）、市町（地域性を踏まえた検討）、大広（ワークショップ運営）と役割分担することで、時間を有効に活用できたこと。
- ✓ 県と市町がワークショップの中で一緒に考えることで、その場で情報やノウハウの共有が図れたこと。
- ✓ 国、専門家、委託事業者とも連携したバックアップ体制を構築することで、異なる多様な視点のノウハウ、意見や助言を得ながら進められたこと。
- ✓ 県としても、市町村の現場感や地域課題の違いを把握することで、広域的に対応すべき事業（結婚支援、企業連携、気運醸成など）の立案につながったこと。

今回の課題

進行・体制における課題



プロジェクトの開始時期が6月からと遅く、また、各市町のスケジュール調整に苦労したことで、**とてもタイトなスケジュールでの検討（ホームワーク含む）**をお願いしてしまったこと。



採択に係るヒアリングや、スケジュール調整はできる限り前倒しで実施



ワークショップの時間の関係上、地域の現状把握（イシューマップの作成）や事業アイデア・構想などが**現場で整理しきれなかった**こと。



特に重要な回は、必要な時間を確保した上で実施



市町毎に**参加する部署や情報共有にバラつき**があったこと。（直接的に関係がない部署（雇用関係等）の意見も必要。）



人選時の丁寧な説明や、必要に応じて他部局も参加できる個別補習を実施



予算化に当たっては関係部局や財政部局との調整が必要であり、**全ての事業が即予算措置にはならなかった**こと。



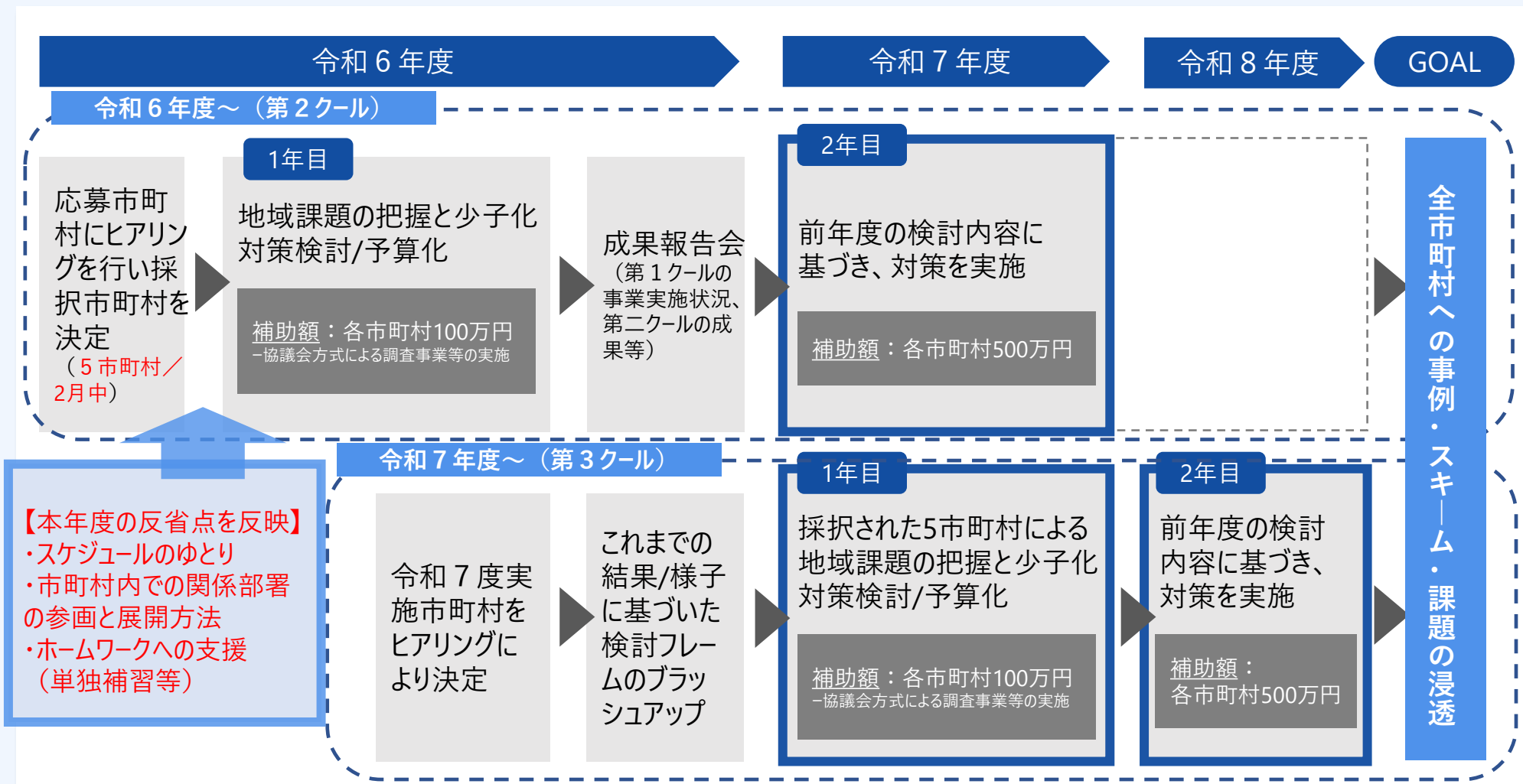
直ぐに予算化や実施できないものは、時間をかけて検討していくことも視野に置いて整理（関係部署が多い、事業規模が大きい、地元の合意が必要など）

今後の展開

本年度（第1クール）参加5市町は、予算要求した事業を進行。

令和6年度（第2クール）は、新たに5市町村を採択し、地域アプローチによる検討を行う。

令和7年度（第3クール）を追加し、期間延長。



岡山県 子ども・福祉部 子ども未来課

野村 Mail : takamasa_nomura@pref.okayama.lg.jp

山形 Mail : shinsuke_yamagata@pref.okayama.lg.jp

岡山県岡山市北区内山下2-4-6 Tel : 086-226-7347